

より15両編成の車両が停車することで屋根本体が短いとともに、設置位置が高く、駅のホームの幅が狭いなど利用者の皆さんにご不便をおかけしていることは認識しております。そうしたことから、町といたしましては、千葉県及び千葉県内の51市町村、また一般社団法人千葉県経済協議会において構成しております千葉県JR複線化等促進期成同盟により、

「住民の更なる利便性の向上について」

金塚 まなぶ 町では、自宅から目的地まで、乗り合いタクシー方式によるデマンド交通「しすいふれ愛タクシー」が運行されています。乗り合いタクシーですので、迎えに行く時間、目的地への到着時間に遅れが生じる場合がありますが、基本的には「ドア・ツー・ドア」でとても便利であります。

全国の自治体から視察・見学に来られ同様の方式が全国の自治体でも導入されていると伺っています。しかし、当町の場合、スクールバスの運行も兼ねている為、スクールバス運行時は児童の利用が優先となっています。また、あくまでも乗合タクシーの為、多少違う方面に向かうこともあり、単独の直行方式でない為、時間に余裕がある場合に利用することが望まれ、急ぐ場合には、通常のタクシーや公共交通機関を利用する必要があります。

一方で、通常の路線バスのように採算が取れる地域の場合、路線バスがあり、民間事業者が運行されています。酒々井町の場合、JR酒々井駅や京成酒々井駅とアウトレットを結ぶ路線や京成酒々井駅から順天堂大学や京成佐倉駅を結ぶ路線が運行されています。その他にも、今までの町からの説明では、町中を周遊するバスや、町内全域を縦断するバス路線などの検討がされてきたと伺っています。

今回の私の質問は、周遊バスのような広い地域を走るのではなく、限られたエリアだけを路線とするコミュニティバスの運行です。多くの住民が住む酒々井駅周辺の地域だけを決めた時間で周遊するバスです。例えば、JR酒々井駅から東酒々

東日本旅客鉄道株式会社への要望活動においてJR酒々井駅の屋根の改修及び延伸について継続して要望をしているところでございます。

今後も、町民の皆様及び鉄道駅利用者の利便性の向上を図るべく、東日本旅客鉄道株式会社へ強く要望してまいりたいと思っております。

井ふじき野地区だけをグルグルと回るコミュニティバスです。同じようにJR酒々井駅西口と中央台方面だけをグルグルと回るバスです。バスは大きい必要はなく小型バスで、できれば環境配慮型バスが望ましいと考えます。

以前から検討、考察がされてきた「乗合バス」の導入については、コロナウイルス感染症の拡大等により、議会での議論自体が行われない状況が続いています。酒々井町での住民が多く暮らす東酒々井、中央台、ふじき野地区も高齢化が進み、車の運転を控えるようになった住民も多くなってきていることから、町内全体を回るような路線バス方式ではなく、中央台地区のみや、東酒々井・ふじき野地区内のみといった決まった区域のみを周回するバスの運行方法も考えられます。コロナ禍で外出に関する議論自体が、されない時間が過ぎてしまいましたが、是非議論を再開するべきと考え、質問をさせていただきます。**このような、小さなエリアを回る決まった時間の運行バスがあれば、それに合わせて出かけることも可能なことから乗合バス(コミュニティバス)の検討を再開するべきと考えますが町の考えを伺います。**

回答 企画財政課長

利便性を考慮した移動手段を検討しているが、他の自治体で、グリーンスローモビリティを活用して、一部の地域を対象として当該地域の住民が主体となって運行している事例があるので、調査していきたいと考えています。



育てます、酒々井の未来！

酒々井町議会議員

金塚まなぶ

かねづか



発行／金塚まなぶ後援会 発行日／令和4年8月

〒285-0928 酒々井町ふじき野2-5-8

TEL 043-497-0018 FAX 043-481-7770

E-mail kanezuka37@gmail.com

公式ホームページ
https://kanezuka.com



子どもたちは未来を支える大きな力

6月3日に厚生労働省から令和3年の人口動態統計の公表がありました。

長引くコロナ禍の影響による、「経済的な不安や受診控えなどから出産を遅らせた」などの理由も考えられますが、出生数が81万1,604人と過去最少となり6年連続で減少しています。今年、令和4年に生まれる子どもの数は80万人を割る可能性が出てきています。

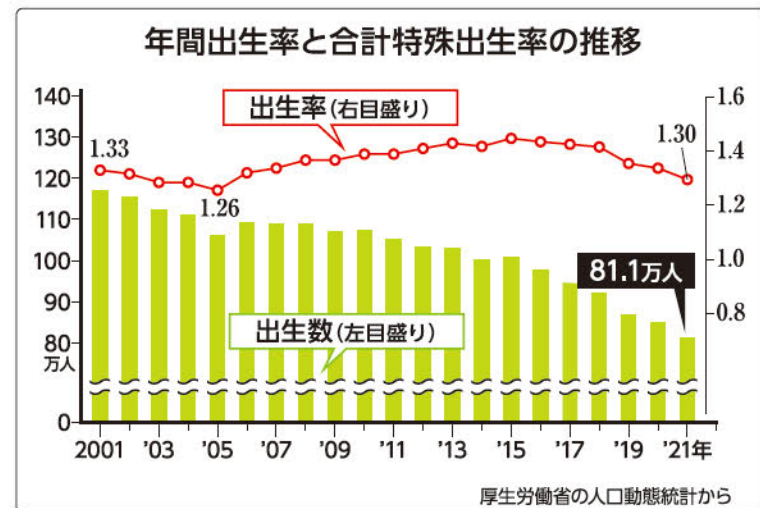
酒々井町でもデータを参考にしているため、たびたび耳にする『国立社会保障・人口問題研究所』の平成29年の推計では出生数が80万人を切るのは令和12年と予測しておりましたので実際に令和4年の出生数が80万人を割り込んだ場合、実に8年も推計より早く推移していることになります。

松野博一官房長官は、6月3日の会見で「少子化の進展は社会経済活動の根幹を揺るがしかねない。最優先で取り組むべき課題で、しっかり対策を講じると」述べました。

その後、6月7日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2022」いわゆる『骨太の方針』では、結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会を目指し、「希望出生率1.8」の実現に向け「少子化社会対策大綱」などに基づき、結婚、妊娠・出産、子育てのライフステージに応じた総合的な取組の推進、結婚新生活立上げ時の経済的負担の軽減や出会いの機会・場の提供など地方自治体による結婚支援の取組に対する支援、妊娠前から妊娠・出産、子育て期にわたる切れ目ない支援の充実、「新子育て安心プラン」の着実な実施や病児保育サービスの推進など、仕事と子育ての両立支援に取り組む。とされています。

金塚まなぶは、町長はじめ執行部の皆様と協力し、常にアンテナを高く張り、国や県と一体となって政策の実現に取り組んでいきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



プロフィール

■生年月日／昭和49年(1974年)1月8日
金塚家の長男として生まれる
■所在地／酒々井町ふじき野
■出身地／千葉県八千代市
■趣味・特技／登山・サイクリング・合気道
■家族構成／父、妻、長男、長女、愛犬マロン
■資格／
潜水士、宅建物取引士、マンション管理業務主任者
一級小型船舶操縦免許
高圧ガス製造保安責任者(丙種化学)
危険物取扱者(乙種4類)
第二級海上特殊無線技士
元 文部科学大臣認定スポーツ指導員(スクーバ・ダイビング)
元 ADS-CMAS スクーバ・ダイビングインストラクター
合気道 初段 SIA スノーボード検定2級



かねづか まなぶ

金塚 学 略歴

1992年3月 渋谷教育学園幕張高等学校 卒業
1994年3月 YMCA海洋科学専門学校 卒業
1994年4月 民間サルベージ(潜水調査)会社 入社
1998年4月 24歳で明海大学(不動産学部)に進学
2000年5月 大学在学中に「オフィス愛」を設立し代表となる
7月 明海大学大学院(不動産学専攻)修士課程修了
2004年3月 自民党参議院議員補選 一秘書となる
2007年7月 酒々井町議会議員初当選
2011年4月 酒々井町議会 経済建設常任委員会委員長
2013年4月 千葉県議会議員(印旛郡選挙区)立候補するも落選
2015年4月 酒々井町議会議員 2期目当選

酒々井町議会議員関係
(平成23年4月～平成25年3月)
●教育民生常任委員会副委員長
●決算審査特別委員会委員
(平成25年4月～平成27年3月)
●経済建設常任委員会委員長
●議会運営委員会副委員長
●決算審査特別委員会委員
●佐倉市酒々井町清障組合議員
(平成31年(令和元年)4月～)
●教育民生常任委員会 委員
●決算審査特別委員会 委員長

成田市議会議員関係
(平成26年4月～平成27年3月)
●成田市保健福祉審議会
子ども子育て支援部会委員

酒々井町議会議員関係
(平成23年4月～平成27年3月)
●酒々井町青少年問題協議会 副会長
●酒々井町都市計画審議会委員
●酒々井町公民館運営審議会委員
●酒々井町農業改良資金審査委員
●酒々井町ふるさとまつり実行委員会副会長
●酒々井町子ども子育て政策会議委員
●酒々井町地域福祉推進委員
●酒々井町学校給食センター運営委員
(平成31年(令和元年)4月～)
●酒々井町環境審議会 委員
●酒々井町都市計画審議会 委員

その他
●元千葉県PTA研究大会 実行委員
●元酒々井町立大室台小学校 学校評議員
●元酒々井町商工会青年部 副部長
●一般社団法人成田法人会青年部会 幹事
平成26年度から「租税教室」担当
●一般社団法人成田法人会酒々井支部 幹事
●酒々井町商工会 理事
●公益社団法人日本青年会議所グローバルリーダー育成塾(第1期)卒業(塾長・榎井よしこ)
●公益財団法人国家基本問題研究所 会員
●一般社団法人倫理研究所 成田市倫理法人会 会長(平成30年度)
●自由民主党酒々井町支部 青年部長
●日本会議地方議員連盟 会員
●認定NPO法人テラ・ルネッサンス 会員
●千葉県中小企業家同友会 会員

討議資料

「住みたい町」から「住んでいてよかった町」へ。住み続けたいまち、酒々井を一緒に作りましょう！

金塚まなぶ 2期目の取り組み について

(議会の一般質問より抜粋)



「町の活性化推進について」

〈令和元年6月議会〉

金塚まなぶ 第5次酒々井町総合計画においては、平成33年(2021年)の人口目標は、推計20,379人に対し、23,000人として計画をされ、平成22年度の生産年齢人口水準、約13,800人を維持することを目的とし、さまざまな施策をされております。

平成27年10月に『酒々井町まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定、各種施策について積極的に展開をされております。当町においては、すぐれた生活インフラと合わせ、地方創生の一連の取り組みを計画的に展開することで、子育てしやすい環境整備などの支援方策が広く皆様に認知され、町への流入人口がさらに増加することを強く望むところでございます。

未来に向けて強い希望がある一方、当町ホームページの住民基本台帳ベース(4月1日時点)で人口を見ますと、毎年100人程度確実に減少し、15歳から64歳までの生産年齢人口でも確実に減少をしています。

酒々井町の人口		酒々井町の15歳から64歳までの生産年齢人口	
平成26年	21,482人	平成26年	13,144人
平成27年	21,321人	平成27年	12,775人
平成28年	21,189人	平成28年	12,490人
平成29年	21,075人	平成29年	12,336人
平成30年	20,906人	平成30年	12,142人
平成31年	20,778人	平成31年	12,019人

この問題を打破するためには、人口増加方針に直結する新市街地開発などの検討も必要であると考えます。市街化区域の未利用地や、その周辺地の市街化調整区域などへの民間活力による宅地開発等を誘導する必要があると考えております。**持続可能なまちづくりのためにも若い年齢層が入居し、長く住み続けられる住宅地の開発を考えていかなければなりません。**決して無秩序な開発やミニ開発を誘導するのではなく、計画されたこの美しい町酒々井にふさわしい新たな住居が必要なのであります。

都市計画の変更を含め、駅周辺の宅地開発やJR酒々井駅、京成酒々井駅間の中心市街地の高度利用の推進が必要であると考えており、生産年齢人口の維持を目指すのであれば、若い年齢層が入居しやすい住宅地の開発が望まれていると思いますが、町としてどのように考えているのか伺います。

回答 参事兼企画財政課長

少子高齢化の急速な進展に伴い、全国の市町村では、移住、定住など地方創生のさまざまな取り組みを積極的に展開しているところです。当町におきましても、第5次酒々井町総合計画を平成24年3月に策定、平成29年3月には町総合計画の総仕上げの期間を対象とする、同後期基本計画を策定し、各施策に横串を刺しつつ、持続可能なまちづくりの実現に向け努力しているところでございます。あわせて、第5次町総合計画のアクションプランと位置づけております酒々井町まち・

ひと・しごと創生総合戦略を平成27年10月に策定し、特に今後急速に進む人口減少社会への対策に特化し、各種施策について戦略的に展開をしております。

その町総合戦略においては、現況市街地の土地利用を前提とし、45年後、2060年の目標人口を1万7,000人として町人口ビジョンにおいて策定したところです。

酒々井町は、東京50キロ圏とすぐれた地勢にあり、駅、高速道路などすぐれた交通環境、さらに都市計画を基盤とした計画的なまちづくり、上下水道整備率の高さや教育環境の充実などを踏まえつつ、現在当町において施策展開している高水準な少子高齢化に向けた各種対応策の効果もあり、他の地域にはない町独自の強みを発揮できる可能性がとて多く秘められております。

地域住民や関係地権者などの皆様のご理解とご協力を得ることが前提となりますが、民間のディベロッパー等積極的に活用し、人口増加施策を挑戦的に展開していくことも必要ではないかと考えております。

金塚まなぶ 人口問題と住宅問題というのは、やはり切っても切り離せない問題であります。酒々井町にはすぐれた公共交通インフラがあり、これを有効に活用することでまだまだ伸びしろがある町であると私は確信をしております。酒々井町が長い間秘めていた潜在的な能力を、今こそこの可能性とともに発揮する時代が来たと本当に感じています。将来的には駅周辺地域に新市街地の開発や中心市街地における高密度な中高層住宅の建設など、区画整理事業や再開発事業というも行っていかなければならないものであると考えております。そのためには民間のディベロッパーや地権者、そして町民の皆様の多くの声を聞いて協力をしていくことが必要であると思います。町ではシティプロモーション・情報発信を行っていただいて、多くの皆様にこの町に移り住んでいただく、そういう施策を行っていただかなければいけないと思います。

毎年人口で言えば、先ほど申しましたように100人、15歳から64歳であれば200人という生産年齢人口が減っているという現実がございます。今ある既存の住宅地での対策で行っているものは何ですか、また住宅問題の喫緊の課題は何ですか。

回答 まちづくり課長

現在行っておりますということのご質問ですが、年々実を言いますと空き家等がふえている状況でございます。それに対して、その利活用可能な空き家等につきまして、それをいかに生かしていくかということが今検討しているところでございます。



「町の利便性向上について」

〈令和2年3月議会〉

金塚まなぶ (質問当時)町税等の納付方法については、町役場、出納室を含む金融機関等での納付、コンビニエンスストア納付、口座振替納付、休日開庁窓口納付の大きく分けて4つの方法がございます。今後、ほかの市町村でも行っている**クレジットカード納付やスマートフォンを使ったモバイルレジ納付、ATM機械を使ったペイジー口座振替納付など、キャッシュレス化の時代に合った納付の方法の拡充について、町の考えと計画を伺います。**

回答 税務住民課長

現在、当町の納付方法としては金融機関等での納付、コンビニエンスストアでの納付、口座振替納付及び最終日曜日の日曜開庁での納付があります。その中でも、平成23年度より実施しておりますコンビニエンスストアでの納付につきまして

「安心・安全で住みよいまちづくりの推進について」

〈令和元年9月議会〉

金塚まなぶ 国道と県道が交わる墨入り口交差点は、国道296号線には右折レーンが設置されておりますが、県道77号線と旧296号線道路、いわゆる**東酒々井団地入り口側の道路には右折レーンが設置をされておられません。**もちろん右折信号や時差式信号もないために、特に朝の通勤時間帯には車両の流れが滞留し、渋滞はアイビネオハイツ方面まで車が並びことがあります。この右折レーン設置要望をしております道路の管理者は千葉県ですが、私自身も平成27年6月議会、平成28年1月議会で一般質問をさせていただいております。町も長きにわたり対応されてきており、南部地区への交通量の増加により、ボトルネックになることへの懸念から、道路管理者である県に対し改善要望をされ、交渉協議を重ねてきていると伺っております。



現在町としては道路管理者である県とどのように協議され、問題解決に向けての進捗状況はどのようにになっているのか、お伺いをいたします。

回答 まちづくり課長

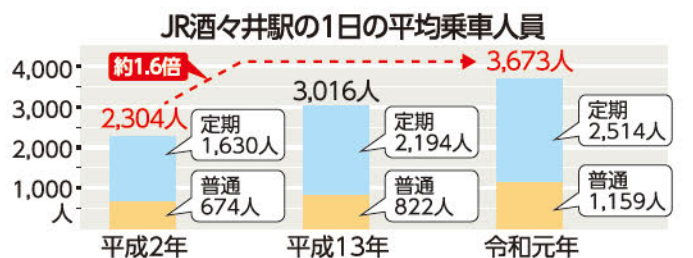
これまで町は管理者である千葉県印旛土木事務所に対し

「町の活性化及び快適な住環境について」

〈令和2年9月議会〉

金塚まなぶ JR酒々井駅は、行政、議会、利用者の皆さんが一体となって陳情を行った結果、現在では快速全便が停車する大変利便性の高い駅となっております。

千葉県統計年鑑で1日の平均乗車人員を調べますと、駅舎が橋上化され有人化された直後(平成2年)から約1.6倍、快速停車後(平成13年)の約1.2倍となっております。



では、多様化する生活様式にも適用できる納税方法であり、納税者の皆様の利便性に大いに貢献できているものと考えております。キャッシュレス化が進みつつある現在、クレジットカード納付、モバイルレジ納付等、納税者の皆様の利便性をさらに考慮した多様な納税方法を検討していくことは重要なことと認識しております。

クレジットカード納付、モバイルレジ納付等につきましては、導入費用、年間維持経費と皆様の利便性等の費用対効果の面を考えながら、今後も検討を進めてまいりたいと考えております。

金塚まなぶは、引き続き納付方法の拡充を推進してまいります。



まして、毎年の県事業要望ヒアリング等の機会におきまして、右折レーンの設置を要望してきたところです。そして、今年度印旛土木事務所により、右折レーンの設置のための概略設計が実施されました。右折レーンの設置までには今後地形測量、詳細設計、境界立ち会い、用地買収、工事発注と段階を踏んでいく必要があることから、引き続き印旛土木事務所に対して必要な予算の確保と工事の早期関係を要望するとともに、用地交渉の支援と町ができる協力をしてまいります。

金塚まなぶ **これから用地交渉など次の段階に入っていくと思いますが、現時点で町としては近隣の用地所有者さんを把握されていると思いますが、その点について地権者の皆さんは、右折レーンの設置に関してどのように思われているのか、わかる範囲で結構ですので、ご答弁をお願いします。**

回答 まちづくり課長

今回、県のほうで概略設計が示されまして、その地権者につきましては、あらかじめ町のほうで全員の方に県のことに関しましてご賛同いただけるかどうかにつきましては、確認をさせていただいており、皆さんご賛同いただくということで、この先を県のほうで進めていただくようになっております。

この問題について、金塚まなぶは、令和2年9月議会でも質問をさせていただき、問題解決に向けて取り組んでいます。

そうした中、非常に残念なのはJR酒々井駅は快速電車が停車できる駅として15両の車両が停車できるホームが設置されておりますが、ホーム上の屋根は8両分しかないのであります。2011年(平成23年)の初当選時から通勤利用者を中心に駅利用者の方々から町として何とかありませんかと声をいただいております。

JR酒々井駅のホームは屋根が短く、降雨時に困っているという声をいただいております。先人たちの嘆願により快速停車駅となり、交通便利性は格段に向上しておりますが、町の活性化や環境整備の視点から屋根の延長についてJR東日本とどのように協議を行っているのかお伺いをいたします。

回答 参事兼企画財政課長

JR酒々井駅のホーム屋根につきましては、快速列車停車に

(裏表紙へ続く)